



新潟県社会福祉士会 事務局だより

2025 No. 05 Jan.2026

各種研修報告

高齢者支援班下越地区「福祉領域におけるシャドーワーク研修会」
高齢者支援班＋ばあとなあ魚沼地区「本人の希望聞いてる？みんなで語ろう」
地域生活定着支援センター司法福祉研修 等

2025年度 都道府県ばあとなあ連絡協議会 報告

ばあとなあ活動報告システム：報告書の変更点について
2026年度「家族割」受付開始

高齢者支援班・下越地区



昨年12月13日(土)に、高齢者支援班下越地区研修として「福祉領域におけるシャドーワーク研修会」をオンラインで開催しました。

昨今、福祉業界で「シャドーワーク」という言葉が流行語になりつつあります。ただ、シャドーワークは「良くないもの」「排除されるべきもの」と捉われがちな印象を受けます。

今回の研修は、運営委員(自称シャドーワーカー)のこういつたモヤモヤした思いをもとに企画しました。

研修には、相談援助専門職を中心に23名のご参加を頂きました。

研修の講師は(株)あしたの森代表の林正海さん。

まず、シャドーワークの捉え方についてお話いただきました。「シャ

ドーワークこそソーシャルワークの要」である！というものでした。

我々相談援助職の業務は「無形の支援」であり、目に見えない支援そのものには「無形の価値」がもたらされています。そのことに気づくことが大切で、気づいていない人がまだ多いとのことでした。

シャドーワーク自体が支援の対象者にとって有益であるならば、チームで関わり連携しながら負担を分散する、適材適所へリファーする、

新たな社会資源として提供できるようなソーシャルアクションする(サービスを作る)など、今後の個々の実践への活かし方についても考えることができました。

今回は参加者同士のグループワークも設け、お互いの日常の振り返りや気づきの機会にもなりました。

本テーマの研修会はまだまだ少ないと思われませんが、福祉専門職のバーンアウト予防の観点から大変有効であると感じました。

(報告…中村真治)

高齢者支援班+ぱあとなあ・魚沼地区

昨年12月20日(土)、小出ボランティアセンターにて、高齢者支援班魚沼地区・ぱあとなあ魚沼地区合同研修を開催しました。9名の方にご参加いただきました。

「本人の希望聞いている？みんなて語ろう」と題し、意思決定支援を現場で実践しているのか、実践しているのであればどのように取り組んでいるのか。ワールドカフェ方式で意見交換を行いました。

参加者からは、「医療同意場面においてどのように行っているのか」「終了ケースにおいて実際に支援している内容が正しかったのか悩んでしまった」「本人と家族の意向が違う場合、どのような対応をとれば良いか」「認知症の症状により支援方法が変わってくるのではないか」等、具体的な場面を想定した議論が行われました。

(報告…栗原勝彦)



地域生活定着支援センター

昨年11月27日(木)に「司法福祉研修」を実施しました。今年は、柏崎市・柏崎市社会福祉協議会のご協力をいただき、柏崎市役所の多目的室で開催しました。

今年のテーマは「生き直しを支える塀の中と外を繋ぐ伴走者たち」。

地域福祉において重層的支援体制整備事業や、職種を超えたワンストップの支援体制の構築が進みつつあります。研修では、柏崎市における重層的支援の取り組みや今後の展望について、柏崎市福祉保健部からご講演いただきました。

また、刑務所での多職種連携がどのように行われているのか、新潟刑務所の矯正処遇調整官、心理専門官、福祉専門官からそれぞれお話いただきました。地域社会が触法者をどのように受け止めて地域社会に繋ぐことができるのか、具体的に考える機会となりました。

後半は、柏崎市と新潟刑務所、地域生活定着支援センターの職員による座談会。ここでは、お互いに業務で苦労していることや、やりがい、地域に期待することなど活発に意見が交わされました。

当日は、会場参加・オンライン参加あわせて約30名の方にご参加いただきました。参加者アンケートでは、研修内容に満足したとの意見が多く寄せられました。

地域の方に、刑務所や、罪を犯してしまった方について少し身近に考えてもらえるきっかけとなったのではないかと思います。

ご参加いただきました皆さま、ご協力いただきました皆さま、ありがとうございます。

(報告：新潟県地域生活定着支援センター 副センター長 平栗華代)

ぱあとなあ

■新潟地区

12月6日、新潟ユニゾンプラザで開催。33名が参加。

研修では、本部委員より家庭裁判所の新様式に関する情報提供があり、終了報告は現時点では従来様式で提出可能であるものの、改めて確認のうえ後日会員へ周知することとしました。あわせて、会員からの事前質問をもとに、被後見人等の支援方針をめぐる、支援者と後見人の見立てが異なる場合の対応についてグループ討議を行いました。身上保護の視点から、安全や健康を本人にどう説明し支援するかなど多様な意見が共有されました。4月施行の家裁の新様式についても活発な議論が交わされた研修でした。

(報告：神田義範)

■佐渡地区

11月22日、新穂公民館で開催。12名が参加。

今年度の成年後見人材育成研修で事例発表者から報告をしてもらい、次年度以降の同研修での事例提供への協力を呼びかけました。

本部運営委員会からは、後見人等候補者選定推薦基準の見直し等について報告がありました。

また、被後見人死後の相続手続き対応事例や、全国権利擁護支援ネットワークの内容共有も行われ、今後の活動に資する研修となりました。

(報告：山田元章、須藤信宏)

■下越地区

11月22日、新発田市ボランティアセンターで開催。11名が参加。

死後事務に関して、死後事務許可申立のタイミングや財産報告の在り方、実務上の留意点について情報共有と意見交換を実施しました。

親名義不動産は名義変更を優先すること、火葬の実施は原則として死後事務許可申立の審判を待つこと、財産状況に応じ家裁と相談して相続財産清算人や管理人を選任する必要性、司法書士等専門職を活用した事例紹介など、実務に資する情報を得る機会となりました。

(報告：齋藤哲英、鈴木優子、宮川雄紀)

2025年度 都道府県ぱあとなあ連絡協議会 報告

昨年11月23日、日本社会福祉士会により、都道府県ぱあとなあ連絡協議会が開催されました。

全国の社会福祉士会から、成年後見事業、未成年後見事業、虐待対応事業の担当者71名が参加し、当会からはぱあとなあ新潟本部運営委員2名（担当理事含む）と虐待対応委員1名が参加しました。

1. グループ討議①

グループに分かれて、各県士会における事業の実務について意見交換が行われました。協議テーマはグループごとに自由に設定することとされました。ぱあとなあ新潟担当理事が参加したグループは、新潟県のほか、岩手県、三重県、福岡県、長崎県などの方がおり、「受任調整」に関わる各県士会の現状について意見交換を行いました。

これから受任基準を設けようと検討中である県や、ぱあとなあとして受任調整会議を実施している県がある一方、すべて中核機関が受任調整を行っており専門職団体では調整を行わないという県もありました。専門職後見人の負担が大きく受任調整が限界にきているという意見もありました。会で法人後見を実施し虐待や困難案件のみを担当しているという県もありました。

2. 基調講演

日本社会福祉士会・参事の星野美子氏（前ぱあとなあ担当理事）を講師に、

「民法改正および総合的な権利擁護支援の充実に向けた動向と社会福祉士（会）の役割と期待」と題した講演をいただきました。

講演では、民法改正に向けた議論の状況（途中経過）が報告されました。また、今後の成年後見制度見直しの方向性の中で、社会福祉士に求められる実践として、

- 専門性が必要とされる事案への対応
 - 身上保護や意思決定支援に対し監督人としての教育的・支持的立場での関与
 - 地域の意思決定支援チームや地域連携ネットワーク構築へのコーディネート的役割
- などが挙げられ、これらに必要な機能やスキルがソーシャルワークであり、これを担えるのが社会福祉士という専門職であることが述べられました。

3. グループ討議②

「民法改正および総合的な権利擁護支援の充実に向けた社会福祉士（会）の取り組みに向けて」をテーマに、再びグループ討議を行いました。

基調講演を受けて考えたこと、地域における総合的な権利擁護支援の充実に向けて各県士会もしくは社会福祉士として取り組みたい事項、そして、自治体・家裁・中核機関（社協等）・専門職団体等関係機関とどのように連携しているか、取組み上の課題と今後求められる取組み等について、グループ内で意見交換を行いました。

4. 日本士会からの報告

2024年度の虐待対応にかかる標準研修及び専門職チームに関する実績が報告されました。

専門職チームを設置しているのは41道府県（新潟含む）、チーム派遣件数（全国合計）は、高齢者虐待事案300件、障害者虐待事案62件。

5. 所感

各県士会の現状を確認する中で、全国共通の課題が存在する一方、地域特性に基づく独自の課題があることを再認識しました。とりわけ、新潟県士会が進めてきた受任調整（推薦依頼元への断りを含む）、初任者支援制度（ゼロイチアクション）、適切な後見活動とリスク管理を踏まえた受任候補者の推薦基準（受任件数の上限・目安）については、他県士会からも関心が高く、新潟の取組の先進性を確認できました。また、権利擁護支援を担う三士会、県社協、専門職団体との連携が他県と比較して進んでいる点も改めて認識しました。

来年度には第二期基本計画が終了し、第三期計画の策定が開始します。加えて民法改正をはじめとする制度改正が進む中、最新情報の把握に努めつつ、後見活動を担う人材の養成・育成を継続するとともに、地域における総合的な権利擁護支援体制の整備に社会福祉士会として積極的に関わっていく必要があります。引き続きその役割を果たしていきたいと考えます。

（報告：ぱあとなあ新潟担当理事 佐藤昭雄）

ぱあとなあ活動報告システム 活動報告書の変更点について（2026年2月定期報告より）

これまでの報告種別（5種類）

「新規」「定期」「終了」「辞任」「引き継ぎ完了」

2026年2月定期報告以降の報告種別（4種類）

「新規」「定期」「終了・引継ぎ完了」「辞任・引継ぎ完了」

報告方法の変更点（2026年2月より）

終了に関する事務・引き継ぎが全て完了した時点で「終了(または辞任)・引き継ぎ完了」報告を提出してください。

引き継ぎがまだ完了しないうちに定期報告の提出期間を迎えた場合は、報告種別を「定期」にして提出してください。

ぱあとなあの活動報告システム上では、「引き継ぎが完了するまでは、終了（または辞任）報告ができない」という形になります。

なお、「終了(辞任)・引き継ぎ完了」の報告がされるまで当該ケースは活動中の案件として取り扱われ、ぱあとなあの保険の対象となります。

2026年1月のシステム変更により、2026年2月の定期報告から、報告種別が変更となります。これに伴い、終了および辞任ケースの報告方法も変更となります。

研修管理システムmanaable（マナブル）の 利用登録をお願いいたします【再掲】



当会ホームページのトップページでこの画像をクリックすると、マナブルの案内ページに入れます。

マニュアルも掲載していますのでご活用ください。

また、マナブルの登録や操作についてご不明な点があれば事務局へお気軽にお電話ください。

ホームページや事務局だよりでご案内の通り、当会では、9月より研修管理システム「manaable（マナブル）」を導入し、10月より、実際に研修申込受付を開始しました。

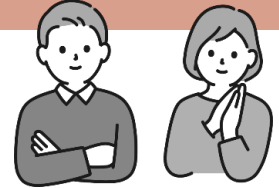
マナブルは、研修申込・受講可否確認・支払い・課題提出・受講履歴管理などを一元的に行うことができます。

11月以降に当会が実施する研修は、基本的にはマナブルを使用しています。ぱあとなあ新潟の各地区研修などもマナブルでの申込受付に移行しています。本事務局だよりにご案内を同封いたしました当会主催の各種研修もマナブルでの申込となります。

次年度からは、基礎研修や成年後見人材育成研修なども、マナブルを使用していく予定です。

皆さまにおかれましては、お手数をおかけいたしますが、マナブルの利用登録のお手続きをお願いいたします。

2026年度 「家族割」 受付開始



2026（令和8）年度分の年会費の「家族割」申請受付を開始します。
家族割は自動更新ではありませんので、該当する方はお忘れなく申請してください。

家族割とは

- ▼ 同一世帯に複数名の正会員がいる場合、2人目以降の年会費が割引されます。（申請者は15000円、2人目以降が12000円）
- ▼ 新潟県社会福祉士会からの送付物（事務局日より、各種研修案内、実践報告集等）が、1回につき1世帯1通となります。
- ▼ 総会の議案集、議決ハガキは全員分が送付されます。
- ▼ 研修参加費の会員価格は全員に適用されます。

申請方法

- ▼ 今回同封した申請書、または当会ホームページから申請書をダウンロードして記入し、下記証明書類を添付のうえ、2026年3月31日（火）までに当会事務局へ郵送またはメールでご提出ください。
- ▼ 家族割は自動更新ではありません。お手数ですが毎年度申請してください。
- ▼ 申請書を提出する前にはコピーを取り、お手元に控えとして保管してください。

家族割の対象	必要な添付書類
・ 同一住所にお住まいで同一姓	証明書類は必要ありません
・ 同一住所にお住まいで、姓が異なる ・ 異なる住所にお住まいで、同姓 ・ 異なる住所にお住まいで、姓が異なる	続柄がわかる書類（戸籍謄本や住民票、同性とのパートナーシップを証明する書類、健康保険証等の写し） ※発行から3ヶ月以内のもの（健康保険証は有効期限内のもの）

2026年度 入会紹介 キャンペーン



2026（令和8）年度も入会紹介キャンペーンを継続します。
皆さまのお近くのまだ入会していない社会福祉士の方、2月1日実施の国家試験に合格した方などに、ぜひご入会をお勧めください！

入会紹介キャンペーン内容

- ▼ 現会員の紹介により新規にご入会いただいた方（再入会の方は除きます）と、紹介した現会員の方へ、当会の研修受講費に充当できる研修クーポン（5000円相当）をプレゼント。

ご利用方法

- ▼ 今回同封した専用申込書、または当会ホームページから専用申込書をダウンロードして記入し、当会事務局へメール、FAX、郵送等でご提出ください。
- ▼ 紹介いただいた方の2026年度内新規入会手続きを確認でき次第、研修クーポンを紹介した方・された方双方にお送りします。
- ▼ 研修クーポンには使用期限があります。また、ナンバリングにて使用管理を行い、本人のみ使用可（他者への譲渡は不可）となります。

お知らせ いろいろ

会員活動部・高齢者支援班

人・仕組み・地域とつながる

ソーシャルワーク実践報告会

▼日時

2026年2月20日（金）午後1時15分～4時30分

▼実施方法

県内4会場での集合型
各会場をオンラインでつなぎます。
会場の詳細は今回同封のチラシをご覧ください。

▼実践報告…つながりから広がるもの

吉原可奈恵さん（上越市・地域包括
たかだ社会福祉士）
平田達哉さん（関川村社会福祉協議
会地域福祉係長）
庭野潤さん（庭野福祉法務事務所
長）

▼詳細・申込

当会ホームページまたは今回同封の
チラシをご覧ください。

会員活動部・人材育成SV支援班

2025年度社会福祉士実習指導者講習
会が終了しました

11月29日、30日、12月7日の3
日間で開催し、50名が修了しました。
ご参加いただきました皆さま、ありがと
うございました。

講習会3日目の講師と
スタッフ



来年度の国家試験受験対策講座について

カリキュラム改訂への対応準備のため2
024年度、2025年度と休止していた
国家試験受験対策講座について、2026
年度から再開予定です。6月～10月、全
5日間の集合型の講座となる見込みです。
詳細が決まりましたらお知らせいたしま
すので、お近くに受験予定の方がおられま
したらぜひご案内ください。

企画部・法人研修班

スキルアップラジオ3.0

ChatGPT×ソーシャルワーカー

▼日時

2026年2月28日（土）午後1時
30分～4時30分

▼実施方法

集合型／新潟ユニゾンプラザ

▼詳細・申込

当会ホームページまたは今回同封のチ
ラシをご覧ください。

会員活動部・生活支援班

ソーシャルアクション実践

はじめの一步

▼日時

2026年3月8日（日）午後2時
～4時30分

▼実施方法

集合型／新潟ユニゾンプラザ
ソーシャルアクション実践報告
佐藤直樹さん（魚沼市社会福祉協
会）

長谷川洋昭さん（田園調布学園大
学）

▼詳細・申込

当会ホームページまたは今回同封の
チラシをご覧ください。

企画部・災害支援班

災害支援活動への協力者求む！

新潟県災害福祉広域支援ネットワーク協議会のホームページはこちら



当会も加盟している「新潟県災害福祉広域支援ネットワーク協議会」では、新潟県災害派遣福祉チーム（新潟県DWA T）の組織化に取り組んでいます。大規模災害時に迅速かつ円滑に災害支援活動者を確保できるよう、協力いただける方にはあらかじめチーム員としてご登録いただきます。

大規模災害の際、避難者は長期間の避難所生活を余儀なくされます。チームを継続的に避難所等に派遣するためには多くの方のチーム員が必要です。

新潟県災害福祉広域支援ネットワーク協議会では災害福祉支援チーム員を常時募集しています。ぜひ皆さまのお力を貸してください。

お問合せは当会事務局まで。

行事予定

2月

3日(火) SWD会議

7日(土) 地域密着型サービス外部評価調査者養成研修③

11日(水) 正副会長会議

16日(月) 組織強化プロジェクトチーム会議

20日(金) 高齢者支援班「人・仕組み・地域とつながる。ソーシャルワーク実践報告会」

21日(土) 関東甲信越ブロック社会福祉士会連絡協議会

24日(火) 法人格取得20周年記念事業実行委員会

27日(金) 理事会

28日(土) 法人研修班「スキルアップラジョ3・0」

3月

8日(日) 生活支援班「ソーシャルアクション実践はじめの一步」

14日(土) 正副会長会議

16日(月) 組織強化プロジェクトチーム会議

24日(火) 法人格取得20周年記念事業実行委員会

最近届いた書籍や刊行物

事務局でご覧いただけます

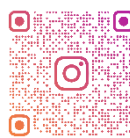


□ 月刊福祉2026年1月号（特集…高齢者介護を取り巻く今とこれから）全社協

□ 実践成年後見120（特集…市民後見人の活躍と展望）民児協研究会、2026年1月発行

FOLLOW ME!

Instagram



NIIGATA_CSW

OfficialSite



Facebook



YouTube



編集後記

自分だけが良ければいいとか、自国だけが発展すればいいとか、そうじゃなくて、今ある秩序を保ちながら、自国と自国以外、世界がみんな発展していこうよ！という方針で偉い人たちは考えてもらえないといし、私たちも社会の中でそう考えていかねばだよねとニュース見ながら思ってます。世界はひとつで歌もあるじゃん。今年がどうか、平和で明るい年になりますように。（は）